

ベンチャー 仕掛け人



ドーガン・アドバイザーズ社長 森 大介氏

九州の中小企業に事業再生やM&A(企業の合併・買収)を助言しているドーガン・アドバイザーズ(福岡市)は二〇〇六年から、ファンド運営による本格的なベンチャー育成に乗り出した。米シテイバンクに在

籍した森大介社長は東京で培った人脈を生かし、顧客企業に「九州の枠を超えた全国区での活躍」を提案する。九州の中小企業の現状や可能性を聞いた。

「九州の20社」発掘めざす

「昨年四月、九電工などが立ち上げた総額約十億円

対抗意識で 自身を鼓舞

拓、福岡事務所の開設にこぎつ

人が殺到するが、よくも悪くも九州は落ち着いている。お金とネットワークを使い、ちょっと背中を押せば全国区で活躍できるようになるはずだ」

(西部支社 石森ゆう太)

ドーガン 中小の事業承継支援 ファンド設立 九州の地銀と組む

【福岡】企業の再生支援などを手掛けるドーガン・アドバイザーズ(福岡市、森大介社長、092・739・2311)は五月に後継者問題に悩む九州の中小企業を対象に、事業承継を支援する

ファンドを立ち上げる。西日本シティ銀行など九州の地銀五行と中小企業基盤整備機構が計四十八億円を出資する。地銀が出資する事業承継ファンドは全国初という。立ち上げるのは「九州

事業継続ブリッジ投資事業有限責任組合(愛称「九州ブリッジファンド」)。中小機構の「がんばれ!中小企業ファンド」の仕組みを活用する。同ファンドは優れた技術やノウハウを持ちながら

後継者難で事業継続が危ぶまれる中小企業の経営権を、オーナーから取得する。数年かけて内部人材を後継者に育成するとともに、新たな事業展開を支援。事業承継完了後は経営陣による企業買収(MBO)や他社への売却、株式公開などで投資を回収する。

中小機構が二十四億円、ドーガンの全額出資子会社、ドーガン・インベストメント(福岡市)が五千万円出資。残りを西シ銀と鹿児島銀行、十八銀行、筑邦銀行、肥後銀行の五行が分担する。運営にはドーガンのスタッフのほか三月解散した産業再生機構で、宮崎交通などの再建に携わったメンバー三人が参画。今後十年で十社程度への投資を予定している。